

神道修成派入社十八益

特35

862

大日本教育書館			
第三室			
一册	二八〇七号	二架	四函

東新

014243-000-8

特35-862

神道修成派入社十八益

佐分 清敏/編

M10

ABB-0572



神道修成派入社十八益

特35
862

東
吉
神
道
修
成
派
入
社
十
八
益

神道修成派入社十八益

中講義佐分清敏

權訓導水谷立五郎

同輯

凡ソ人世ノ一義ヲ先ニ立テ利ハ後ニスベキナレ
凡利益ナキ一ハ人心ノ向ハザルナレバ先ツ何事ヲ
始ルニモ如此利益アリト云フ説示セバ人心モ速ニ
向ヒ來ルベシ只今當修成派へ入社スレバカクノ如
キ利益アリト云處十八ヶ條ヲ見出シタリ猶此他入
社ノ利益ハ數多ケレドモ一々述盡シ難クレバ差當

神道修成派入社十八益

リ心付タル儘申述ルナリ然ルニ先最初ニ申述タ
 キ一ハ凡ソ世ノ中ニテ講社々々ト云ガ數々アリテ
 結社スルナナルニ何レモ神道第一部第二部第三部
 第四部ノ支配ヲ受ケテ在ルナナルニ當派ハ元ハ修
 成講社ナリシニ昨九年十月廿三日別派御許可ニテ
 神道修成派ト唱フト成レリ其時元教部省ヨリ府
 縣一般へ御布達ニ相成レリ就テハ皇國中我修成
 派ノ一ヲ知ラザル人ハ無キ筈ナリ此上ハ當派へ入
 社スレバ如此義理ニ合ヒ如此利益アリト云フヲ説
 諭シ華士族平民ノ別ナク入社致サシムルニ在ナリ

此説諭詳細行届カザレハ人々感服シテ難有思フニ
 至リ難シ故ニ此十八益ヲ以テ申述へ人心ヲ固結シ
 永ク當派ノ教ヲ守リ子孫ニ至ル迄動カサザルベシ
 總テ當派内ニアル教導職ハ勿論各社中モ此十八益
 ヲ以テ説諭シテ入社致サセ當派ノ教法ヲ盛大ニシ
 旭日ノ昇ル如クスベシ扱其十八益ノ第一ト申スハ
 ○抑神代ノ時ニ天神ヨリ伊邪那岐命伊邪那美命へ
 此漂へル國ヲ修理固成セヨト詔リシ給フ此修理固
 成ハ神道ノ大本ニシテ今日何人ニテモ此道理ヲ心
 得ズテハナラザルナナルニ世ノ中ニハ浮々トシテ

此理ヲ心得ザル人多キガ當派へ入社スレバ此修理
固成ノ全體ガ明ニ分ルナリサレバ一時間ヤ二時
間ヤニ説盡サレ難キナリ入社スレバ漸々心得テ
腹ニ入ル益アリ

○二ニハ神徳皇恩ト云ガアル夫レハ我皇國ノ人
ハ皆天神ノ御神徳ニ依テ生レ出又生キテ居ルニ
テ其神徳ノ高太ク心得スシテハ人タルノ甲斐ハナ
キ也我輩祖先以來相續シテ我身ニ今日何一ツ差
支ルナク此世ニアルハ皆歴代天皇ノ御恩殊ニ
ハ今上天皇ノ御恩ナリ入社スレバ此御神徳ト

天皇ノ有難キヲ心得テ我御國體ノ尊キヲ心得ルノ
益アリ

○三ニハ天御中主神皇產靈ニ柱神ハ此世界ノ末々
成ラザル前ヨリ在ス神ニテ現今モ此大地世界ノ立
行ク様御取計ヒヲ付サセ給フ御神ナルニ今ノ人村
村ニ氏神或ハ國ノ一宮等ヲ拜ムハ知リ居レバ此
造化三柱ノ大神アルヲ心得ザル者多シ故ニ拜ム
モ無リシニ今當派内へ加レバ天御中主神皇產靈神
ハ教務局等ニ齋キ祭リ時々祭典モアレハ入社ノモ
ノハ直ニ天御中主神皇產靈神ヲ拜ムヲ得テ此御

神ノ氏子ノ如クナルヲ得ラルベシ

○四ニハ我身ハ父母ヨリ生作ラルレ其心魂ニ至
 リテハ尊ク大切ナルヲナルニ世人多ク是ヲ失ヒア
 レバ身死スレバ心魂モ共ニ消滅スルニ至ル哀ムベ
 キヲナリ抑當派ノ教法タルヤ心魂ヲ練磨キ生キテ
 ハ人物トナリ人ニ仰カレ死スルトモ此心魂著明ニ
 シテ靈アリ永久ノ幸福ヲ受ルニ至ラシムルニ在リ

○五ニハ人タル者ハ學問ナクテハ人物トナリ難シ
 心魂ヲ練磨シ身ヲ修メ家ヲ齊フルノ學ハ人々終身
 忽ニスベカラザル義ナリ故ニ家業ニ忙キ者ハ講録

ヲ讀ムヲ聞キテ道ヲ心得ベシ學カアル者ハ皇典
 漢籍等ニ就テ講求スベシ右ハ教務局等ニテハ修業
 ノ出來ル手順ヲ設ケアレバ入社スレバ必ス學ニ上
 達シ人道ヲ辨知スルノ益アルベシ

○六ニハ當派教務本分局支局等ニテ派内社中ノ爲
 ニ時々祭典アリ新年ニハ社中ノ爲ニ祭典ヲ行ヒテ
 社中ノ幸福ヲ祈ルモアルベシ六月十二月等ニハ
 大祓ヲナシテ社中ノ災厄ヲ拂ヒ春秋ニハ大祭典ア
 リ月々ニ小祭典アリ天御中主神皇產靈二柱神伊弉
 那岐神天照大神八百萬神ヘ對シ社中ノ幸福ヲ祈レ

ハ總テ當派へ入社ノ人ハ神明ノ擁護ニテ幸福ヲ受ルノ益アルベシ

○七ニハ方今 天子様ニハ一切佛法ハ御用ヒ遊ハサレズ 皇靈御祭典モ神道ヲ以テ御執行ヒ遊ハサレ御葬式モ神道ニ在セラル下タル者ハ上ニ隨フガ當然ノ理ナレハ皇國中ノ人ハ神葬トナルベキ筈ナリ當派内ニ如レハ直ニ神葬祭トナルコトヲ得ラルナリ併シ從前佛葬ノ者神葬トナルニハ寺へ離擅シ其地方廳へ届出ル處ノ手續ヲナスバシ又教務本分局中ニ於テハ社中祖先ノ神靈ヲ祭レバ入社スル者ハ

其祖先ノ靈修成派ニテ祭ラル、コトヲ得レバ祖先へ對シテ孝道ニ叶フ處ノ益アリ

○八ニハ當派へ加ル者ハ朝ハ早ク起キテ先祖以來傳ハリシ家業ニ勉勵セシメテ一人モ佚居シテ懶惰ニ日ヲ送ルヲ許サレハ金モ穀モ澤山出來テ子孫タル者モ夫々本業ヲ勵ミ家富ミテ家門繁榮子孫長久ニ至ルノ益アリ

○九ニハ當派ハ檢約ヲ主トシテ教レハ奢侈ニ流ルルノ弊ナシ當今天下困窮ニ至ルハ世ノ中奢侈ニ流ル、故ナリ然ルニ已レ一人檢約セントスレモ世間

ノ付合モアリテ一人見苦シキ一ハナラザル人情ナ
リ今當派へ入社スレハ其廉ヲ以テ如何様節儉スル
モ差構ヒナケレバ人ニ對シテハ修成派ノ教ヲ守ル
ト云テ申開キヲ立テ飽マデ節儉ヲ行フ一ノ成テ家
ヲ富スニ至ルノ益アリ

○十二ハ人ノ體ニ疾病アルハ時トシテ免レザル處
然ルニ前條ノ如ク儉約スル故大酒ヲ飲ム一ナク賣
女ヲ買一モナク麤食シテ身ヲ働カス故身ハ壯健ト
ナリ總テ天神ヲ信仰シテ我身ヲ大切ト思ヒ大切ニ
養生スル故病ヲ受ル一ナシ假令死スベキ身モ存生

シ病ヲ受ヘキ者モ壯健トナルノ益アリ

○十一ニハ御一新以來ハ門閥モ多ク廢セラレ一般
華士族平民トナレリ然ルニ今何人ニテモ願出レハ
當派管長新田邦光殿ノ門人トナリ神道修成派内へ
加ル一ヲ得テ身ノ規模トナルベシ且書ヲ讀ムカナ
クトモ道ニ志ス處ノ名義モ立テ其身ノ光リトナル
ベシ其利益廣大ナリ入社セズンバ有ベカラス

○十二ニハ當派へ入社ハ道ヲ行フが主ナレバ入社
ソ上ハ必ズ道ヲ行フ一トナリテ決シテ惡事ニ關係
ナキ一トナルベシ故ニ入社スレバ道ヲ心得テ行フ

トトナリ其地方廳ヨリ御叱^シリヲ受ル^トナク裁判所
ヨリ罰^{バツ}ヲ受ル^トナシ我カ行^フ處神明ノ神慮^リニ叶^ハ
バ勿論神ヨリ罰ヲ受ル^トナク我行^ヒ道^ニ叶^フヲ以
テ世人ヨリ譽^{ホタ}ラレ信仰セ^ラレ神明ノ擁護^{ゴウゴ}ニテ永福
ヲ受ル^ノ益アリ

○十三ニハ當派へ入社ノ人へハ各自印鑑ヲ授ル^ト
ナルガ此印鑑ヲ所持スレバ諸國ニアル同社中へ照
會スル^ト得^テ萬一困難等ニ遇^フトアレバ同社中へ
倚頼^{イライ}スルノ便宜^{ベンギ}ヲ得^ク又宿々修成派定宿アル處
ニテハ派内社中ノ人ハ定宿ヨリ町寧^{チヨウネイ}ニ取扱ハレテ

宿料ニ割下ケトナルノ益アルベシ

○十四ニハ人々一生ノ大禮ハ誕生^{タマシ}婚禮^{コンレイ}等或ハ葬儀
ノ^トナルガ是等ノ禮式ニハ入費莫^{バツ}太^ニテ一生ノ貧^{ヒシ}
困^{コン}ヲ招^{マネ}ク^トアル者ナリ誕生婚禮等總テ當派ノ式禮
アリテ禮ヲ盡シ入費ノカ^ハラザル^トトナレリ且葬
儀モ當派ノ法ニ從^フハ多分ノ入費カ^ハル^トナン總
テ一生ノ大禮ニ費^ツテ省^ハキテ禮ヲ懇切^{コンセツ}ニ行^フト得
ル益アリ

○十五ニハ當派へ入社スレバ其同社中ハ一家ノ如
ク親睦^{シンボク}スルニ至^ル故ニ我身モ結社スルニ付テ強^{ツヨク}キ

ニ至ル者ナリ何トナレバ人々一人立ニテハ弱キ者ナルニ何十人何百人モ結合ヘハ強クナル者ナリ萬一疾病患難ノ時同社中ヨリ救合ニ至ル筈ナレハ疾ト難トノ患モ免ルサレバ結社スレバ弱キ者モ必ズ強キニ至ルノ益アリ

○十六ニハ前條ノ如ク一人立ニテハ弱キコナルニ結社スレバ強クナレバ入社スベシ入社シテ身分相當報國盡忠ノ處ヘ志スベシ外國人連モ外國教ヲ我國ヘ弘メントスルニ我國人ニテ國教ヲ知ラスシテハ汗顔ノ至リナリ故ニ入社シテ道ヲ心得我國教

ヲ以テ人心ヲ固結シ神明ノ守護ヲ得テ敢テ心ヲ他ヘ引出サレザルノ益アリ

○十七ニハ人々一生ノコトハ僅ノコトナルニ後ノ後遺名ノ殘ルト云ハ誰人モ好ミ欲スルコトナルニ當派内ヘ加ハレバ名ノ殘ルコトナリ著速書アレハ上木シテ派内ヘ頒布セラレ盡力ノ廉アレハ其功ヲ廣告シ修成派ノ記録ニ永久記載セラレ當派ノ為ニ盡力ノ功ヲ立ル者ハ何級社中ト云階級ヲ加ヘラレ其名ノ揚ルコトヲ得ベシ當派ヘ入社ノ者各府縣ヘ且ルコトナルニ其廣告ヲ得レバ大ニ名譽ヲ得ルノ益アリ

○十八ニハ當派へ入社トナル上ハ人物ハ當派管長
 邦光殿ヨリ其地方廳へ協議ノ上教導職試補ニ申付
 ラルベシ猶出格ノ人物ハ訓導講義等へモ御撰舉ニ
 ナリ内務省ヨリ御辭令書御下渡トナルベシ實ニ普
 通ノ士民教導職トナルハ太ニ身ノ光ト相成先祖へ
 對シテモ孝トナリ其子孫ヨリモ別格ノ尊崇ヲ受ベ
 シ第一世人ノ師表トナリテ仰キ尊バル叔教導職ハ
 容易ニ免スルトモナケレバ一生其職ニ居ラルベシ
 死スル迄其職ニ居リテ死スル故ニ幽界ニ在リテ別
 格ノ取扱ヲ受ルトナレバ顯幽トモニ身分ノ昇ルト

ヲ得ルノ益アリ

○凡ソ此十八益ハ入社スルヨリ生スル處ナリサレ
 ハ入社ノ利益アルヲ察スベシ善ハ急ゲト云俗言モ
 アレバ一刻モ早ク入社アルベシ叔從前入社ノ人ハ
 前條ノ廉ヲ以テ篤ト説諭ニ及ビ一人モ多ク勸メテ
 當派へ入社致サシムベシ天御中主神皇產靈ニ柱神
 等ハ人ニ心魂ヲ授ケ夫々善ヲ行ハシメ給フ神慮ナ
 ルニ世人多ク身體ノ慾ニ率カレテ心魂ヲ失フ今入
 社セシメ善道へ引入ルレバ神慮ニ叶ヒ僅少ニテモ
 入社サセタル者ハ小福ヲ受ケ多人數入社サセタル

者ハ大福ヲ受ベシサレバ既ニ入社シタル人ハ人ヲ
勸メテ當派ヘ入社セシメ入社セザル人ハ速ニ入社
スベシ如此言フ處ハ聊私意ヲ交ルニ非ス皇國ノ道
ヲ擴充スル爲ニ聊申述ル處ナリ

附テ言フコノ書ハ世間ニ發賣スル書籍ノ類ニ
非ズ廣ク我同派内ノ人ニ示サントスルニ筆勞
ヲ省ンガ爲ニ如此上木スル者ナレバ倉卒校正
行届ザル處アリ讀ム者は是ヲ恕セヨ

神道修成派入社十八益終

明治十年十一月三日 届濟

定價六錢

編輯人

尾張國中島郡一宮村

中講義 佐介清敏

東京第一區十五區松屋町三丁目

權訓導 水谷立五郎

東京駒込斤町九番地寄留

出版人

權中講義 北室春三

